令和４年度第1回アレルギー疾患医療連絡協議会（R5.2.14開催）
議事録【抜粋】

〇アレルギー疾患診療等状況調査についての主な意見

<調査の必要性>

・　まずは実態把握が必要。アレルギー専門医がいることと診療・検査ができることは同じではない。例えば、どういった診療・検査を府内のどの医療機関が実施しているのか実態把握した上で、次にどうしていくかという議論になるのではないか。

<調査内容について>

・　（アレルギーに関する）患者側の認識と、医療機関が真に対策しなければいけない疾患の発生頻度には大きなズレがある。このため、まず、疾病の分類、生命に関わる救急搬送事案や死亡例などの実態調査を行い、その状況に合わせて各医療機関の対応を調査するという、二つの調査が必要ではないか。
・　調査に当たっては、①府民が検索しやすく、自分に合った適正な医療が受けられることにつながる調査内容であること、②医療側の連携につながる調査内容であることが大事。

＜調査における留意点＞

・　アレルギー疾患は多岐にわたり、様々な診療科が対応。また、軽症のため診療所で対応できるものから、生命に関わり大学病院等でしか対応できないものまで、重症度も様々であり、医療機関アンケートは慎重にやらなければならない。
・　軽症からアナフィラキシーまで幅広いアレルギーについて全般的に調査する場合、設問がかなり多くなるため、その辺りの検討が重要。